

大災害 3分の2は暴風雨

温暖化進行で深刻に

国連が報告 書案で警告 環境対策など勧告

この夏、日本や米国に大きな被害をもたらした大型の台風やハリケーンだけでなく、過去十年間に記録された世界の大災害約七千件のうち、三分の二が暴風雨によるもので、地球温暖化の進行で今後、この種の被害はさらにひどくなる危険性が高いとする、世界の防災に関する国連の報告書案が二十五日、明らかになった。

阪神大震災から十年に 神戸市で開く国連防災世なるのを機に来年一月に「界会議に向けたもので、

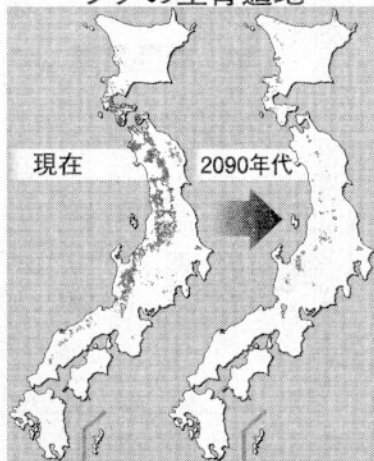
16日、ハリケーン「アイバン」が通り過ぎたフロリダ州で被害を受けた建物 (ロイター共同)



温暖化を含めた環境対策 害被害軽減策の立案なや、都市のインフラづくど、各国への勧告を盛りりを考慮した総合的な災 込んでいる。内容は十月、

地球温暖化が進めば、二市)のチームが二十五日ま十一世紀末には国内でブナ でにまとめた。

の生育に適した地域が現在の 担当した同研究所の重点の一分以下約二千三百平 研究支援協力の松井哲哉方きに減少、中国、四国、さんは「ブナの落ち葉や実九州ではほぼ全滅するとの は森の動植物の大切な栄養予測を、独立行政法人森林 分。森の生態系全体に影響総合研究所(茨城県つくば を与える」と話している。



ブナの適地 1割以下に

今世紀末 温暖化進めば日本も影響

研究チームは全国を一キ 四方に分け①冬には雪が降 り気温が適度に低い地域 で、暖かい気候に向けた樹 木が茂らない②厳冬期で も、ブナが枯れる氷点下三 〇度を下回らない③などブ ナの生育条件に適した地域 の面積を算出した。 現在の適地は東北から中 国地方にかけての日本海側 の山地を中心に二万六千二 百二十平方キあるが、二〇 九〇年代には、本州の高山 地帯や北海道日本海側の北 部、中部などに限られ、二 千二百九十一平方キに減少 するとの結果が出た。

ジュネーブでの同会議の 準備会合で討議される。 報告書案は、一九九四 年に横浜市で開かれた国 際会議で採択された「よ り安全な世界に向けた横 浜戦略」の進ちよく状況 無計画な都市の拡大と農 村部の貧困が同時に進み 「これが災害の被害を拡 大する結果になってい いかの規模の大洪水や豪 雨などがこの間、世界各 環境保全策や社会計画と を統合し、持続可能な開 発を実現することが、自 然災害の被害を減らす上 で重要だと指摘した。